

平成 2 8 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 2 8 年 4 月～平成 2 9 年 3 月

1. 学校概要

学校名 神戸大学附属中等教育学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☒ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒658-0063

兵庫県神戸市東灘区住吉山手 5-11-1

E-mail kuss-global@edu.kobe-u.ac.jp

Website http://www.edu.kobe-u.ac.jp/kuss-top/

児童生徒数 男子 447 名 女子 476 名 合計 923 名

児童・生徒の年齢 12 歳～18 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☒ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☒ 世界遺産
- ☒ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☒ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☒ エネルギー
- ☒ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☐ そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

I 国際問題や日本の伝統文化等についてのセミナー

(1) グローバルリーダーセミナー

①Keisan® ジラー・キュダス氏 “Global Inspiration: Solving Real-world Social, Economic and Geo-political Problems” (5月) (全学年希望者)
②カナダ大使館ケール・ハズバンド二等書記官「カナダ, ブリティッシュコロンビア州の特徴について」 (兼カナダ語学研修事前学習) (7月) (3,4年生カナダ語学研修参加予定者及び全学年希望者)
③神戸大学国際文化学研究科 坂井一成教授「EUの移民・難民問題」 神戸大学学術研究推進本部学術研究戦略企画室 富田克彦特命教授 「欧州(特にスペイン)と神戸市・神戸大学のスマートシティ取組の紹介」(兼神戸大学ジャンモネ COE 主催「高校生向けミニシンポジウム」) (7月) (全学年希望者)
④「しんかい 6500」初代チーフパイロット 田代 省三氏ほか「海に挑む」 (兼神戸大学, 海洋研究開発機構 JAMSTEC 主催シンポジウム) (10月) (全学年希望者) ※校外で実施
⑤ベトナムハノイ国家大学外国語大学附属外国語英才高等学校 グエン・ティ・チュー・フォン教諭 「ベトナムの文化」(兼ベトナム研修事前学習) (10月) (4年生ベトナム研修参加予定者及び全学年希望者)
⑥クロアチア共和国ドラジェン・フラスティッチ大使 「EUがあなたの学校にやってくる」講演会 (後期課程生徒全員) 【写真1】
⑦上方落語協会会員 桂三輝(かつら さんしゃいん)氏 「外国へ伝えたい日本(英語落語)」(12月) [4年生全員(校外学習)及び全学年希望者(校内)2回講演] 【写真2】
⑧神戸大学大学教育推進機構地球惑星科学教育部会助教 佐藤 鋭一氏, 人と防災未来センター研究員 坪井 壱太郎氏, 本校教諭 瀧本 家康, 平成28年度ジオパーク交流プログラム(GEP)参加生徒「ユネスコ山陰海岸ジオパークと神戸」(3月) (前期課程生徒希望者30名)

(2) 神戸大学主催「世界に挑む産業界・官界・政界トップリーダーによる連続リレー講座」

回	日	テーマ	講師	参加者数
第1回	6/11 (土)	【パネルディスカッション】 ・第一部 グローバル化とは何か?の中で日本 ・第二部 学生は何をび, 身に付けるべきか?	《コーディネーター》 門脇直哉 (JAPICJAPIC JAPIC) 《パネリスト》 三和正明 (日本の魅力と真価を学ぶ集い) 中川順子 (野村ホールディングス) 宮本徹 (JAPICJAPIC JAPIC) 小川真人 (神戸大学理事・副学長)	4
第2回	6/18 (土)	・現代の金融システム ・日本の未来を切り拓く~少子化・IT化・グローバルと我が国の将来ビジョン ・これからの国土づくりのあり方	吉村 隆(ゴールドマン・サックス証券株式会社) 西村 康稔(衆議院内閣委員長 衆議院議員) 山田 邦博(国土交通省 近畿地方整備局長)	21
第3回	6/25 (土)	・海外で仕事をするとときに最低限身に付けておくべき素質・養とは ・日本の農林水産業 ・東日本大震災の被災地から見てきた災害復興の在り方	上村 俊一(JAPIC 事業企画部 次長) 末松 広行(経済産業省技術環境局長) 野田 武則(釜石市長)	50
第4回	7/2 (土)	1. 総合商社の活動内容 2. 少子高齢化問題にどう対応していくべきか ・ASEAN 大市場統合と日本 ・世界政治と経済の様相が益々流動化する中で, 日本企業国際戦略は?	島崎 豊(丸紅株式会社) 深沢 淳一(株 読売新聞東京本社) 田邊 弘幸(双日株式会社顧問)	13
第5回	7/9 (土)	・自動車のグローバル化と鉄鋼業 ・日本の安全保障環境と防衛政策	赤松 将雄(新日鐵 住金 株式会社) 鈴木 敦夫(防衛省 防衛政策局)	12

		・メディア融合とデジタルコンテンツ戦略	脇浜 紀子(読売テレビ放送 株式会社編集局)	
第6回	7/23(土)	・総括 試験	丸山 裕之(JAPIC) 小高 裕之(神戸大学連携創造本部)	2

Ⅱ 社会問題・国際的課題についての大会・交流会等

(1) NFLJ ディベート全国大会

(7/30-31 於：大妻中野中学校・高等学校)

4年生2名参加。2名1組のパブリックディベート。論題：「個人の遺伝子検査は公共の健康に有益か。」

(2) WHO 神戸センター主催 ひょうご・こうべ保健医療ハイスクールサミット

(8/21 於：神戸国際会議場)

テーマ「国際保健，私たちにできること」

G7 神戸保健大臣会合推進協議会の関連事業。保健医療に関する世界的な課題について，県内高校生と国内外の専門家等が議論を行い，課題解決に向けた行動指針を探ることを目的としている。兵庫県内の高校生がグローバル・ヘルス（国際保健）に関してどのような貢献ができるかを考える機会とし，ハイスクールサミット当日はその成果をパネルディスカッション，ポスターセッションなどのプログラムを通じて発表した。最終的には，それぞれの高校代表者の意見を「ひょうご・こうべ高校生宣言～私たちにできる国際貢献～」と題した宣言文にまとめ，WHO フォーラムにおいてマーガレット・チャン WHO 事務局長に手渡した。【写真3】

(3) 名古屋大学教育学部附属中・高等学校主催 Global Discussion

(8/22-23 於：同校) 4, 5年生5名参加。議題：移民の受入れ

〔本校以外の参加校〕

東京学芸大学附属高等学校，東京学芸大学附属国際中等教育学校（ユネスコスクール），名古屋大学教育学部附属中・高等学校（ユネスコスクール）他

【写真4】

(4) 社会科解説提案討論会

(3・9・12月) 1～3年生のべ41名参加。

現代社会で注目されている内容から，芸術・文化まで，毎回設定されるテーマについて参加校が，調査・研究・提案・討論を行った。専門家による解説・講評も行われ研鑽を深めた。

(5) 全国 SGH 高生徒成果発表会

(11/10 於：筑波大学) 4～6年生 3名参加。

東南アジア各国の高校生，SGH 指定校の生徒と持続発展可能な社会づくりに向けたシンポジウムに参加し，SGH に関する成果や実践内容を発表した。【写真5】

(6) 全日本高校模擬国連大会

(11/12-13 於：国連大学) 5年生2名参加。

国連の多国間外交をロールプレイで学ぶことで，国際連合及び国際関係に関する研究と正確な理解，解決策を考察する。議題：サーバー空間 【写真6】

(7) JICA 関西主催 高校生国際協力実体験セミナー

(12/18 於：JICA 関西) 4, 5年生4名参加。世界が抱える問題についての理解を深め，それらの課題解決に向けて自身のライフスタイルや行動についてワークショップ等を通して学んだ。

- (8) 兵庫県企画県民部ビジョン課主催 ひょうご若者ビジョンフォーラム
(12/18 於：兵庫県民会館) 4, 5 年生 3 名参加。「ゆたかな兵庫とは？」をテーマにグループ別に討議し、課題解決に向けての提案を発表した。
- (9) 高校生国際問題を考える日・ひょうご・こうべワールド・ミーツ for YOUTH
(2/11 於：大阪大学) 大阪大学との連携指定校における事業。平成 28 年度は「ひょうご・こうべワールド・ミーツ for YOUTH」(G7 神戸保健大臣会合推進協議会)との共同開催。国際問題に関する研究発表（ポスター）及び講演会に参加した。
- (10) 関西学院大学主催 SGH 甲子園
(3/19 於：関西学院大学) 課題研究についてポスター発表，グループディスカッション（テーマ：移民の受入れ）に参加し，最優秀賞を受賞した。

Ⅲ 国内外の国際交流活動

＜海外国際交流活動＞

- (1) カナダ語学研修
(7/24-8/5 於：カナダチリワック，バンクーバー) 3, 4 年生 24 名参加。カナダにおける英語・文化研修を通して，英語によるコミュニケーション能力を高め，現地家庭に滞在しながら，大学訪問，現地語学学校研修等に参加した。
【写真 7】
- (2) 神戸市主催 神戸市韓国青少年国際交流事業
(8/5-8 於：韓国大邱広域市) 2～3 年生 4 名参加。姉妹都市交流事業。大邱広域市を訪問し，現地でホームステイしながら文化交流や歴史探訪の活動に参加した。【写真 8】
- (3) 兵庫県教育委員会主催 ひょうご・ロシアハバロフスク少年少女交流事業
(8/14-21) 1, 2 年生 3 名参加。ロシアハバロフスク地方を訪問し，自然保護区域における活動を通じて環境保護等について学び，現地青少年との交流やホームステイを通じて国際交流活動を行った。【写真 9】
- (4) 英国ロンドン修学旅行
(11/4-10) 5 年生全員。ロンドン，ケンブリッジの交流校にてグローバルサイエンス，バイオ，日英伝統文化比較，震災復興等について発表・意見交換を行った。
- (5) 英国ケンブリッジ研修
(6/24-7/2) 5 年生 5 名参加。EU 離脱問題に関するアンケート調査，鉄道，市場調査等，現地で研究活動を行った。【写真 10】
- (6) 米国シアトル研修
(10/7-17) 4 年生 5 名参加。マイクロソフト社，ボーイング社等の見学，移民に関するアンケート等，参加生徒が自身の課題研究を交流校（International Community School）の生徒との交流や現地調査を通じて深めた。【写真 11】
- (7) ベトナムハノイ研修
(11/6-13) 4 年生 6 名参加。「ベトナムに見るグローバリゼーションの現在」をテーマに現地交流校（ハノイ国家大学外国語大学附属外国語英才高等学校）の生徒との交流及び調査活動を通して，東南アジアにおける平和及び異文化について理解を深めるとともに，ベトナムにおける民族独立の歴史，経済発展の成果と課題について学んだ。世界遺産「ハロン湾」の見学も行った。【写真 12】

(8) 台湾 Asian Student Exchange Program (ASEP)

(12/23-28) 4, 5 年生 6 名参加。台湾高雄市で開催。台北市にて故宮博物院を見学後、高雄市に移動。交流校の高雄師範大学附属高級中学の生徒と Pop Culture and Life をテーマに協働プレゼンテーションを行った。【写真 13】

(9) カンボジア研修

(1/13-20) 5 年生 6 名参加。教育、環境、平和問題等、カンボジアの抱える様々な課題について学んだ。アンコールワット遺跡群、JICA カンボジア事務所、JICA 支援関連施設、プノンペン日本人学校等の訪問を通して調査活動を行った。
【写真 14】

<国内国際交流活動>

(1) 兵庫県国際交流協会主催 台湾教育旅行受入れ

(7/17) 4~5 年生が交流運営に参加。交流校の高雄師範大学附属高級中学の生徒 35 名を受入れ。通常の授業や給食で交流したほか、茶道・華道、書道といった日本の伝統文化体験も通じて異文化交流を深めた。【写真 15】

(2) ベトナム研修団受入れ

(10/14-22) 交流校（ハノイ国家大学外国語大学附属外国語英才高等学校）の生徒 4 名をホームステイで受入れ、交流した。受入れ期間中、ホスト生徒は交流を通じてベトナムの文化について学んだだけでなく、京都、広島・宮島研修に参加し、日本の伝統文化や平和についても理解を深めた。【写真 16, 17】

(3) 神戸大学留学生との交流

(3 月) 1~2 年生全員。神戸大学留学生に対し、英語のプレゼンテーション（日本文化紹介等）を行い交流することを通して異文化理解を深めた。【写真 18】

(4) JICA 研修団との交流

(6/28) 4~5 年生 1 部クラス全員。JICA の途上国教育使節団を迎え、「途上国の教育」、「途上国支援の在り方」等を英語での交流を通して学んだ。
【写真 19】

(5) フランス中学との交流

(通年) 交流校（フラソワーズ・ドルト中学）の日本文化同好会「アトリエ日本 (Atelier Japon)」の生徒と英語を用いて文通やインターネット（電子メール、ビデオレター）を通じた交流を行った。

(6) EU 東京研修

(3/15-16) 4, 5 年生 4 名参加。元外務省職員田中享氏、元サウジアラビア駐在匿名全権大使遠藤茂より国際情勢や地勢学の基本知識について講義を受講させていただき、ドイツ大使館を訪問し、移民受け入れをはじめとする EU の問題についてディスカッションをさせていただいた。後日神戸大学大学院国際文化学研究科の坂井一成教授の研究室も訪問し、参加生徒自身の課題研究について指導していただいた。【写真 20】

Ⅲ ユネスコ推奨及び委託事業

(1) 震災・復興・減災仙台交流プログラム (DR3)

- ①テーマ：震災 (Disaster)・復興 (Reconstruction)・減災 (Reduction)・レジリエンス (Resilience) をテーマとした仙台交流プログラム (DR3 プロジェクト)

②目的

被災地体験を共有する神戸市と仙台市の高校生・大学生が交流しながら、大規模震災に対するリスクマネジメントについて多角的な視点から学ぶ。具体的には、神戸大学附属中等教育学校と仙台周辺の高校生・大学生が交流しながら、

ア 身近な地域に起こった、あるいは今後起こるであろう自然災害について共に学ぶ

イ 震災遺構見学や語り部講話などを通して震災の記憶をどのように後世に伝えていくかを共に考える

ウ 津波堆積物ボーリング調査などを通して、自然科学的研究手法から震災を捉え、理解する

エ 上記活動を通して、他を思いやることのできる生徒を共に目指すことを主たる目的とする。

③ 対象生徒 4～5 年生、のべ 130 名程度

④連携機関

- 仙台市立仙台青陵中等教育学校
- 東北大学東日本大震災ボランティア支援室（SCRUM）
- 東北大学リーディング大学院
- 宮城県多賀城高等学校
- 宮城県塩竈高等学校
- 宮城県古川黎明中学校・高等学校（SSH）
- 仙台白百合学園中学高等学校（SGH）
- 灘中学高等学校

⑤平成 28 年度実施内容（平成 27 年度 3 月活動を含む）

- 3 月 11-13 日 仙台周辺ボランティア参加
- 5 月 27 日 JR 住吉駅における熊本地震募金活動
- 5 月 30-31 日 東京研修（復興庁本庁、気象庁、東京大学地震研究所、国土交通省等訪問）【写真 21】
- 6 月 25 日 神戸大学連続リレー講座（釜石市長 野田武則氏講義）受講
- 6 月 28 日 MBS 毎日放送「ネットワーク 1.17」収録
- 7 月 5 日 神戸大学海洋底探査センター（KOBEC）センター長 巽好幸氏訪問
- 7 月 12 日 「人と防災未来センター」 坪井塑太郎博士による GIS 講座
- 7 月 18 日 淡路島研修（北淡震災記念公園）
- 7 月 22 日 神戸市立渦が森小学校における減災教育【写真 22】
- 7 月 31 日-8 月 2 日 第 1 回仙台交流プログラム（仙台市立仙台青陵中等教育学校ほか）
- 8 月 25 日 神戸市灘消防署訪問
- 8 月 28 日 「クロスロード体験会」
- 9 月 17-18 日 夷原祭（本校文化祭）における減災教育ゲーム出展
- 9 月 29 日-10 月 1 日 日本地理学会秋季学術大会（東北大学）発表
- 11 月 10 日 「第 2 回全国 SGH 校生徒成果発表会」（筑波大学）発表
- 11 月 22 日 神戸市灘消防署との「ダイレクトロードゲーム」実施
- 11 月 25-26 日 「『世界津波の日』高校生サミット in 黒潮」（高知県黒潮町）参加【写真 23】
- 12 月 11 日 第 4 回 Go Global Japan Expo2016（鳥取大学）発表

12月13-15日	第2回仙台交流プログラム（宮城県多賀城高等学校ほか）
1月12日	本校第1,2学年生徒に対する減災教育
1月29日	「イザ！美かえる大キャラバン！2017」出展
2月23日	神戸市教育委員会 神戸市中学校理科教員研修における減災教育講師
3月4日	宮城県多賀城高等学校「東日本大震災メモリアル day」
3月17日	神戸大学附属中等教育学校 グローバルリーダーセミナー 「東日本大震災と阪神淡路大震災：被災経験地に住む中等生に何ができるのか、何をすべきなのか」
3月23-25日	第3回仙台交流プログラム（宮城県多賀城高等学校ほか）
3月28-29日	日本地理学会春季学術大会（筑波大学）発表

(2) アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト(IIME: International Intercultural Mural Exchange)」(文部科学省・外務省後援事業)

「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト(以下、アートマイル)」は、非営利団体ジャパンアートマイル実行委員会(JAM)主催の海外の学校とICTを活用して共通のテーマで協働学習を行い、学習の成果として1枚の壁画(1.5m×3.6mの大型絵画)を共同制作する国際協働学習の事業である。

また、アートマイルはユネスコから「平和の文化10年プロジェクト」として認定され、世界125カ国から約50万人が参加しているグローバルプロジェクトである。アートマイルにおける世界の同世代と現代社会に共通の課題について学び合う国際協働学習は、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育としてESDに最適なプログラムでもある。

また、本校では平成26年度より3年間継続してESDの学習分野を交流相手校との協働学習のテーマとして取り組んでいる(表1)。平成28年度は「平和」をテーマとしている。

表1：交流相手国とESDのテーマ

参加年度	交流相手国	ESDのテーマ
平成26年度	タンザニア	エネルギー
	台湾	環境
	メキシコ	世界遺産
平成27年度	フランス	水資源管理
平成28年度	インドネシア	平和

本プロジェクトは、日本の子どもたちと海外の子どもたちをインターネットでつないで、文化的・歴史的背景が違う海外の子どもたちと共通のテーマで協働学習を行い、学習成果として壁画を共同で制作する国際協働学習を通して日本人として自分の国の伝統文化に誇りを持ち、グローバルな広い視野を持って、自ら考え行動し、世界の人々と協働して世界の調和と平和に貢献する次世代を育てることを目的としている。

前述のとおり、平成28年度は「平和」をテーマにインドネシアの学校と協働学習を進め壁画制作に取り組んだ。近代化の中にも伝統的な文化を大切にしている日本は「伝統文化との共存」、多くの島からなり、それぞれの島の文化や宗教が異なるインドネシアは「多様性からの統一」をコンセプトに「平和」を表現した。また、壁画には両国の平和のシンボルと文化(建物、衣装、自然など)をあしらった

〔写真 24〕。

生徒たちは、相手国の文化について理解を深めることができただけでなく、国による「平和」の捉え方について違いがあることも認識することができた。

(3) ジオパーク交流事業 (GEP)

2015 年 11 月 17 日、フランスのユネスコ本部で開催された第 38 回ユネスコ総会において、これまでユネスコの支援事業として行われてきた世界ジオパークネットワークの活動が「国際地質科学ジオパーク計画」として世界遺産と同じユネスコの正式事業となった。

このような背景のもと、本プログラムでは、「山陰海岸ジオパークをフィールドとした公立鳥取環境大学・鳥取県立岩美高等学校との交流プログラム：多様な地形・地質・風土と人々の暮らしー神戸と山陰海岸の違いに着目してー」をテーマに、兵庫県に位置する山陰海岸ジオパークの貴重な自然・風土を活かし、以下の 4 点を達成することを目的としている。

- ①フィールドワークを中心とした自然科学的・人文科学的研究手法の基礎を修得する。
- ②公立鳥取環境大学・岩美高等学校と連携し、現地の大学生ならびに高校生と交流・合同フィールドワークを実施することを通して、山陰海岸ジオパークの貴重な自然・風土を学ぶ。
- ③太平洋側の神戸と日本海側の山陰海岸における気候・風土・歴史の違いを学ぶ。
- ④山陰海岸ジオパークの貴重な自然・風土について学ぶことを通して、地元「神戸」に対する郷土愛や誇りを醸成する。

対象生徒は、4～5 年生ののべ 10 名程度である。

表 2 に、平成 28 年度に実施した 2 回の活動内容について記載する。

平成 28 年度の成果としては、2 回の現地訪問と交流活動を通じて、山陰海岸ジオパークの自然科学的側面と人文科学的側面の両面を学ぶことができた点である。

しかし、神戸から山陰海岸ジオパークまでの移動時間が現地での活動時間を圧迫してしまう面もあり、現地における活動に十分な時間を充てることができなかった点が課題としてあげられるので改善を図る必要がある。

表 2：平成 28 年度 GEP 活動内容

実施日	活動内容
①6 月 20 日	鳥取県立岩美高等学校との合同フィールドワーク（自然科学） 熊井浜、竜神洞フィールドワーク〔写真 25〕
②10 月 28 ー29 日	公立鳥取環境大学との合同フィールドワーク（人文科学） 山陰海岸ジオパーク館見学、坂町フィールドワーク、湯村温泉フィールドワーク、春來地区フィールドワーク、地元住民・鳥取環境大学学生・本校生徒のディスカッション〔写真 26〕

(4) ESD Food プロジェクト

本事業は、「食」をテーマとした 2016 年度文部科学省委託事業日本/ユネスコパートナーシップ事業の国際協働学習プロジェクトである。「食」とそれを取り巻く状況は、生物多様性や気候変動、食の安全、消費、伝統文化など経済、環境、社会、文化など多彩な切り口が考えられる豊かな題材である。

本校の ESD Food プロジェクトでは、「『食』を通して考える持続可能な生活と社

会」をテーマに、「食」に関する課題について、国内・海外の学校と協働学習を行うことを通して、問題解決力を養い、国際的な視野を含む多様な価値観から意思決定する能力を身に付け、多様な文化や考え方が存在することを学び、批判的思考力や創造的思考力、長期的に物事を考える力を養うことを目指している。

平成 28 年度は、前期課程生徒（食文化チーム）・後期課程生徒（生産消費サイクルチーム） 約 70 名が本プロジェクトに参加した。表 3 は、本プロジェクトにおける「食」に関するグローバルな問題との関連性を記したものである。

表 3：「食」に関するグローバルな問題との 関連性

A 食文化チーム（前期課程）
<p>○食生活の変化が人々の健康に及ぼす影響（日本では食の欧米化の影響を受けて脂質の過剰摂取による生活習慣病の増加が懸念されている問題。</p> <p>○家族構成や生活スタイル、嗜好の変化にともなう人々の食生活の変化や、生産・消費の関係から昔から地域で受け継がれてきた食事（伝統食、郷土料理）の継承が難しくなっていること。</p>
B 生産消費サイクルチーム（後期課程）
<p>○日本は食糧自給率が低く（40%）、食料品の多くを外国からの輸入に頼っているが、その食料廃棄率も高い（約 26%～47%）という現状がある。食料輸入をしている先進国は自給率を上げるとともに廃棄率を減らし、発展途上国でも自国のために食料を多く生産することが必要であるということ。</p>

活動内容として、前期課程、後期課程それぞれの共通課題について、国内（前期課程：群馬国際アカデミー、後期課程：広島県立安古市高等学校）、国外（後期課程：インドネシア SMK Wikrama Bogor、インド Delhi Public School, Nacharam）と Skype によるテレビ会議やメールのやり取りを通して意見交換を行った。また、ジャンクフードの有害性や、食料廃棄の問題について共通のアンケートを実施し、その結果を比較・分析した。【写真 27】

活動期間中、食料廃棄について理解を深めるために、NPO 法人「フードバンク関西」へのフィールドワークも実施した。

本プロジェクトの活動を通して、国内・海外の交流相手校とのテレビ会議でお互いの活動や食文化に紹介しあうことで、相手校や自校がある地域の食文化はその地域の歴史と関わっていることに気づいたり、自校のある地域の食文化を見つめなおしたりする生徒の姿が見られた。また食品ロスの現状に驚き、途上国の飢餓の現状や食品ロスや過剰生産が引き起こす資源の枯渇、環境破壊などの現状から、強い課題意識を持つ生徒がおり、この現状を変えるために自分ができることを模索し行動しようとしている。後期課程（高校）の生産消費サイクルで扱っている食料廃棄の問題の学習成果が、前期課程（中学）の生徒にも波及し、前期課程の生徒から次年度の文化祭で「フード・ドライブ」を行う提案があり、有志メンバーを募ってすでに準備を開始している。

ESD の目標の一つに「環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと」がある。本プロジェクトの活動を通して、生徒たちの中から意識と行動の変容がみられたのは予想外であるが、大きな成果であると考える。本プロジェクトでは前年度、後期課程 4 年生（高校 1 年生）の英語の授業で「水」と「食料」の問題を学習した成果も活かすことができ

た。また、課題研究としてフード・ドライブ活動をテーマとしている生徒を指導している家庭科教諭、本プロジェクトの前期課程担当の栄養教諭、全体コーディネーター及び後期課程担当の外国語（英語）教諭による「同僚性」が構築され、今後他教科への広がりも期待できる。

■活動の様子（写真一覧）



写真1：EU があなたの学校にやってくる
クロアチア大使との懇談会



写真2：英語落語講演会
桂三輝（かつら さんしゃいん）氏



写真3：ひょうご・こうべ保健医療ハイ
スクールサミット



写真4：名大附属主催 Global Discussion
テーマ：移民受け入れ



写真5：全国 SGH 高校生成果発表会
ポスター発表 「建築素材における低圧縮型木片コンクリートが与える未使用木材利用の可能性」



写真6：全日本高校模擬国連大会
議題：サイバー空間



写真7：カナダ語学研修



写真8：神戸市韓国青少年国際交流事業



写真9：ひょうご・ロシアハバロフスク
青少年交流事業



写真10：英国ケンブリッジ研修
交流校生徒との交流



写真11：米国シアトル研修
マイクロソフト社見学



写真12：ベトナムハノイ研修
交流校にて日本文化紹介



写真13：台湾 Asian Student Exchange
Program (ASEP) 台湾生徒との協働発表



写真14：カンボジア研修
国立輸血センター見学



写真 15：台湾教育旅行受入れ
日本文化（茶道）紹介



写真 16：ベトナム研修生受入れ
日本文化（空手）紹介



写真 17：ベトナム研修生受入れ
広島にて平和学習



写真 18：神戸大学留学生との交流
日本文化紹介



写真 19：JICA 研修員（途上国教育行政
官）との交流



写真 20：EU 東京研修
ドイツ大使館訪問



写真 21：震災・復興・減災仙台交流プ
ログラム 復興庁訪問



写真 22：同プログラム
地域小学校における減災教育

	
<p>写真 23：同プログラム 「世界津波の日」 高校生サミット in 黒潮</p>	<p>写真 24：アートマイル完成作品 交流国：インドネシア テーマ：「平和」</p>
	
<p>写真 25：ジオパーク交流プログラム 熊井浜にて 地質と地形の特徴を学ぶ</p>	<p>写真 26：同プログラム 新温泉町春来地区住民の方々との交流</p>
	
<p>写真 27：ESD Food プロジェクト インドネシアの学校とのテレビ会議</p>	<p>写真 28：同プロジェクト 「フードバンク関西」訪問</p>

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- その他 (生徒会下部組織 Global Career Committee として各プロジェクトの有志メンバー (震災・復興・減災仙台交流プロジェクト, 国際交流, ESD Food プロジェクト, アートマイル) を募り, 活動している)